



「地熱シンポジウム in 函館」が開催されます ～北海道の可能性を学ぼう！考えよう！～

10月8日は『地熱発電の日』



経済産業省は、エネルギーのベストミックスの実現に向け、地熱発電開発を支援しています。今般、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) において、道内の地熱を活かした地域事業事例を紹介し、今後の地熱開発と地域活性化を考えるシンポジウムを開催しますので、奮ってご参加ください。

【開催日】平成29年10月17日(火)～18日(水)

【場 所】函館市民会館大ホール(函館市湯川町1-32-1) 他

【プログラム】

(1)シンポジウム「地熱開発と地方創生を考える～期待が高まる北海道～」

①基調講演

・「北海道における地熱開発の動向と今後の展望」

(講師：道総研地質研究所 資源環境部長 高橋徹哉 氏)

・「森町の地熱利用事業について」

(講師：森町長 梶谷恵造 氏)

②特別セッション「弟子屈町での地熱発電と地熱利用」

(講師：野村北海道菜園(株) 代表取締役 十川洋 氏)

③パネルディスカッション「地熱開発と地方創生を考える」

(自治体関係者、地熱事業者、ゲストによるパネルディスカッション)

(2)市民のための地熱講座

(3)地熱展示会

(4)地熱見学ツアー(10月18日(水) 森町他)

○お問い合わせ・お申し込み先

参加申込の方法等、事業の詳細については、以下のURLをご覧ください。

<http://www.chinetsu2017.jp/>

※地熱発電の日：国内発の地熱発電所である岩手県八幡平市の松川地熱発電所が運転を開始して平成28年(2016)で、50年を迎えたことを記念し、制定されました。

北海道における地熱の取組事例

森町 ～発電後の熱水利用による野菜の通年栽培～

- ・昭和57年の北海道電力(株)森地熱発電所の運転開始に伴い、発電後の熱水の一部を真水と熱交換し、65℃の温水を近隣のビニールハウス97棟に無償供給し、トマトやキュウリを栽培しています。
- ・トマトは森町の作物別販売額でトップを占める基幹作物の一つ。高糖度で日持ちが良く、市場からも高い評価を受け、端境期には、高値で販売できるため、農家にとって付加価値の高い生産が可能となっています。



農業ハウスと栽培されたトマト

弟子屈町 ～地熱資源を活用した地域活性化～

- ・弟子屈町では昭和50年代から暖房設備の熱源等として地熱資源を活用した取組を行っています。町内では民間事業者による地熱開発も進んでいて、既存の温泉井戸を活用した地熱発電事業や地熱水を活用したハウス栽培(葉物野菜・マンゴー等)が行われており、ハウス栽培施設は地域における新たな雇用の場となっています。
- ・現在は地熱資源の更なる有効活用を目指して、町主導による地熱資源調査事業が行われており、地熱発電事業等を通じた新たな地域サービスの創出を目指しています。



硫黄山噴気帯と温泉熱を利用した栽培したマンゴー

経済産業省は札幌市と北海道ガスが取り組んでいる スマートエネルギーネットワーク事業を応援しています

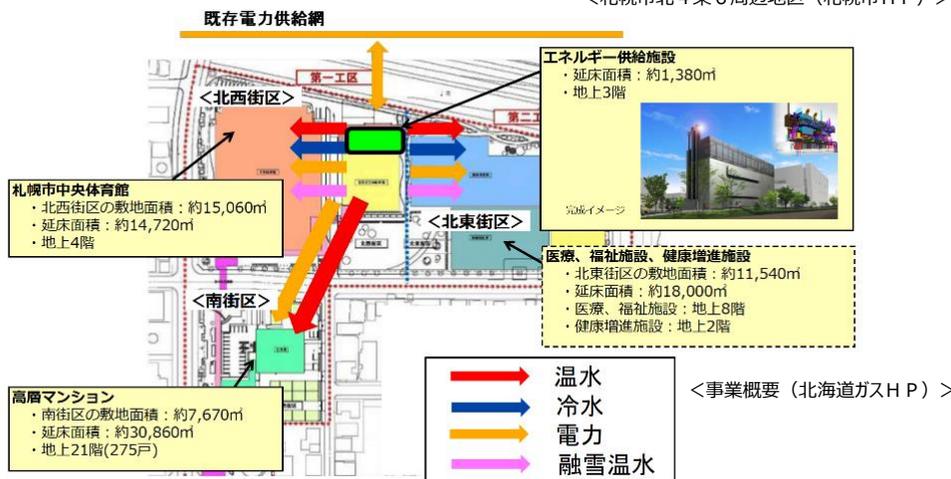
札幌市では、北海道ガス工場跡地を含む「北4東6周辺地区」を、「札幌市エネルギービジョンのリーディングプロジェクト」に位置付けて、自立分散型エネルギー拠点の整備に取り組んでいます。

総合エネルギー事業の展開を図る北海道ガスでは、札幌市と連携し、平成28年度から経済産業省の「エネルギーシステムモデル構築事業」に係る補助金を活用して、ガスコージェネレーションと再生可能エネルギー(太陽熱・地中熱)を活用したCEMS(地域エネルギーマネジメントシステム)を導入し、エネルギーセンターから体育館、集合住宅、医療・健康増進施設へ電力・熱を供給するための整備を行っています。

北海道経済産業局では、本事業のようなエネルギー事業者と地方自治体が連携した地域における分散型エネルギー拠点の整備を支援しています。



＜札幌市北4東6周辺地区（札幌市HP）＞



◆地域の特性を活かしたエネルギーの地産地消促進事業費補助金（エネルギーシステムモデル構築事業）
http://www.teitanso.or.jp/energy_system_construction_project

＜担当：ガス事業室＞

環境ビジネスに取り組む企業の事業紹介

廃棄されるジャガイモの皮を活用して発酵飼料を開発

良質な飼料の供給で畜産業に貢献

＜タイセイ飼料(株)＞

（音更町）

環境ビジネスの概要

牛用飼料の専門会社である同社は、「お客様の要望を見つけ出しこれを満たす」を理念に、畜産農家・企業の多様な要望に対応。道内で排出される食品残さを有償で引き取り、飼料の材料に利用することで社会に貢献してきた。今までにビール醸造時に出る酵母の粕や、ジュースを搾った後のノンジン残さを使う飼料を開発。平成23年には、企業からの依頼で引き取ったポテトピール(ジャガイモの皮)と、残留でんぷんを発酵したセミTMR(完全混合飼料)を開発し「フード・アクション・ニッポン・アワード2011」優秀賞を受賞した。

特色のある事業・技術

ポテトピールは水分が80～90%を占め腐敗しやすいため、研究の結果、適正な水分量にした上で発酵させることに成功。牛の飼料摂取量が向上したと評価を得ている。ジャガイモ残さを発酵飼料に活用する事例は世界的にも珍しい。「良質なエサを通して(健やかな牛を育て)人の食料を作っている」との信条を持つ同社は、営業各自がクライアントの牛群ごとの栄養設計を行うのが特長。定期的に糞を検査し、消化状態によって飼料の配合バランスを変えるなどの丁寧な健康管理で肉質の向上や乳量増加などに貢献している。



10℃に調整された保存倉庫で発酵する飼料



上記記事は、道内環境関連企業の情報を取りまとめた冊子『北海道環境企業データBOOK2017』より抜粋したものです。当該冊子の郵送希望や詳細は、以下のURLをご覧ください。

<http://www.hkd.meti.go.jp/hokni/db2017/index.htm>

＜担当：環境・リサイクル課＞

引き続き、夏季の省エネルギーの取組へのご協力をお願いします ～ 6月から9月は夏の省エネキャンペーン！！～

平成29年度の「夏季の省エネルギーの取組について」において、6月から9月において夏季の省エネルギーの取組を促進しています。本取組は、省エネルギーに関する国民運動の展開、産業界等への周知・協力要請及び政府自らの取組について定めたものです。つきましては、無理のない範囲で省エネルギーの取組の実践についてご理解とご協力をお願いいたします。詳細は、以下のURLをご覧ください。

◆平成29年度「夏季の省エネルギーの取組について」を決定しました

<http://www.hkd.meti.go.jp/hokpw/summer17/index.htm>

＜担当：総合エネルギー広報室＞

